

自己評価書作成要領

教職大学院の認証評価

平成29年12月11日

一般財団法人教員養成評価機構

教員養成評価機構（以下「機構」という）は、申請のあった大学の教職大学院に対して、「教職大学院等の認証評価に関する規程」に定める事項に従い、「教職大学院評価基準」に基づき、認証評価を行います。

認証評価は、『認証評価実施要項』のとおり書面調査と訪問調査により実施します。

まず、認証評価を受ける教職大学院は、それぞれ自己評価を実施し、自己評価書を作成します。書面調査は、各教職大学院が作成した自己評価書（現況票等の基礎データや自己評価の根拠として提出する資料・データを含む）及び評価専門部会が独自に調査・収集する資料・データ等により分析を行います。訪問調査では、別に定める『訪問調査実施要領』に基づき、書面調査で確認できなかった事項等を調査します。

この『自己評価書作成要領』は、各教職大学院で行う自己評価の方法等についてまとめたものです。本要領をもとに適切かつ効率的な自己評価を実施してください。

第1 自己評価の内容

認証評価を受ける各教職大学院は、自己評価を実施し、自己評価書を作成します。自己評価は、10個の基準領域による「基準」ごとに、その内容について基本的な観点を踏まえた教育活動等の状況を分析し、記述します。すべての「基本的な観点」に係る状況の分析・整理が求められますが、設置基準との整合性や各教職大学院の状況・特色等から判断し、①基準に係る状況が該当する観点を除いても十分に説明できる場合や②観点の内容に該当しない場合には、自己評価書の「基準に係る状況」は当該観点を除いた記述で差し支えありません。

また、基準領域ごとの「長所として特記すべき事項」は、各教職大学院の特徴を具体的に記述します。

「基礎データ」は、自己評価書に添付するもので、「1 現況票」「2 専任教員個別表」「3 専任教員の教育研究業績」で構成されています。1, 2は、実施年度の5月1日現在とし、3の教育研究業績は、最初の認証評価にあっては、設置時からの業績、2回目からは前回実施年度からの業績が対象となります。

「必要な資料・データ」は、基本的には、統計的なものとし、基準ごとに、評価作業に必要と思われるものを列挙しているので、なるべく既成のものを活用願います。

自己評価書提出後、機構では、「書面調査」及び「訪問調査」を実施し、評価結果案を作成します。評価結果を決定する前に、評価結果案を大学に通知し、その内容等に対する申立ての機会を設け、必要により再度審議します。意見の申立てがあった場合には、機構は、意見申立審査会を設け、審議します。意見の申立てに対する審議を経て、評価委員会において評価結果を決定します。

第2 認証評価のスケジュール

評価実施の前年度

- 11月 ・実施大学から評価申請
- 3月 ・評価委員会 評価実施大学の決定
- ・実施通知・評価手数料支払書類等送付

評価実施年度

- 5月 ・評価委員会 評価専門部会の設置、評価員の選出
- ・評価手数料納付
- 6月 ・評価専門部会 評価員の研修
- ・実施大学から自己評価書の提出
- 7月～8月 ・書面調査

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 9月 | ・評価専門部会（評価チーム会議） 訪問調査の打合せ |
| 10月～11月 | ・訪問調査 |
| 12月 | ・評価専門部会 評価結果原案の決定 |
| 1月 | ・評価委員会 審議・評価結果案提示
・意見の申立て手続き |
| 2月 | ・意見申立審査会 審議 |
| 3月 | ・評価委員会 審議・評価結果の決定 |

第3 自己評価の構成及び様式

自己評価書は、次の様式で作成してください。

なお、様式は機構ウェブサイト (<http://www.iete.jp/>) からダウンロードしてください。

- ① 自己評価書は、A4縦長・横書きで作成してください。上下左右 25mm程度の余白をとってください。
- ② 原則として、日本語は明朝体で全角、英字は明朝体で半角、数字は、1桁は明朝体で全角、2桁以上の数字は、明朝体で半角を使用してください。
- ③ 「I 教職大学院の現況及び特徴」の頁から中央下に通し番号（-〇-形式）を付けてください。
- ④ 表紙を除く各頁の右上に教職大学院の名称を付けてください。
例：「〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻」
- ⑤ 基準領域ごとの自己評価の各頁には、教職大学院の名称に加えて、「基準領域〇」を付けてください。
例：「〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域〇」
- ⑥ 基準領域ごとに改頁してください。

I 教職大学院の現況及び特徴

教職大学院の現況及び特徴は、次の内容構成で 横50字縦40行程度で、1頁にまとめてください。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとしてください。

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名

教職大学院の名称を記述してください。 例：〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地

教職大学院の設置計画書に記載した「大学本部の位置」を記入してください。

例：〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇

(3) 学生数及び教員数

評価実施年度5月1日現在の教職大学院の学生数及び教員数を記入してください。

学生数は、評価実施年度5月1日現在の在籍学生の総数を記入してください。

教員数は、休職を除く専任教員数とし、かつこ書きで実務家教員の数を内数で付記してください。

例：学生数 〇〇人

教員数 〇〇人（うち実務家教員〇人）

2 特徴

教職大学院設置までと設置後の沿革や教職大学院設置の理念、設置目的に至る考え方などを含めながら、教職大学院の特徴がわかるように、記述してください。教職大学院のパンフレット等の文章を引用するなどしても構いません。

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

I 教職大学院の現況及び特徴

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地 〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇

(3) 学生数及び教員数（平成〇〇年5月1日現在）

学生数 〇〇人

<p>教員数 ○○人（うち、実務家教員 ○○人）</p> <p>2 特徴</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p style="text-align: center;">- 1 -</p>

II 教職大学院の目的

専門職大学院設置基準第2条第1項に「専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする」とされています。教職大学院は、専門職大学院設置基準第26条（教職大学院の課程）に「小学校等の高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を行うことを目的とする」とされています。また、学校教育法第109条第3項において、「専門職大学院の設置の目的に照らし、当該専門職大学院の教育課程、教育組織その他教育研究活動の状況について認証評価を受けるものとする」とされています。

そこで、教職大学院の認証評価においては、自己評価書で、法令による教職大学院そのものの目的に照らし各教職大学院が目標を明示することにより、その目的に向かって教育活動等が実施されているか、評価基準ごとに達成状況を中心に調査、分析します。

法令等に示されている教職大学院の「目的」に照らし、1) 教職大学院の使命や教職大学院がめざすもの、2) 教職大学院で養成しようとする人物（教員）像、3) 教育活動等を実施する上での基本方針、4) 達成すべき成果などを、原則として横50字縦40行程度で、1頁にまとめてください。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとしてください。

○○大学大学院○○研究科○○専攻
<p>II 教職大学院の目的</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p style="text-align: center;">- 2 -</p>

III 基準ごとの自己評価

「基準ごとの自己評価」は、次の**基準領域1**から**基準領域10**ごとに、

- 1 基準ごとの分析
 - ・各基準の〔基準に係る状況〕の記述
 - ・ 《資料・データ等》リスト
 - ・ (基準の達成状況についての自己評価) (特に記述すべき事項を含む)
- 2 「長所として特記すべき事項」

を記述します。

字数は、1基準あたり 1,500字(50字×30行)程度とします。基準数の多い基準領域3や基準領域6については、適宜オーバーしても構いません。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとしてください。

「基準ごとの自己評価」全体では、45,000字以内を字数制限の目安としてください。
 基準領域1、基準領域2・・基準領域10の基準領域ごとに、それぞれ改頁してください。

1 評価基準

教職大学院の認証評価の基準領域は、1から10に分かれていて、各基準領域のなかに、1または複数の基準があります。

たとえば基準領域1（理念・目的）は、1-1から1-2まで2つの基準があります。

この2つの基準は、レベルⅠ、レベルⅡのいずれかに分類されています。レベルⅠは、各教職大学院において、定められた内容が満たされることが求められるものです。レベルⅡは、各教職大学院において、定められた内容に関する措置を講じていることが期待されるもので、レベルⅡの評価結果は、基準の内容についての各教職大学院の充実度を示すものです。したがって、認証評価においては、レベルⅠの基準をすべて満たし、評価基準に適合していると認められた場合に、「適格認定」が与えられます。

各基準の次に基準の内容を分析するための「基本的な観点」の番号を、かっこ書きで付記しています。

2 基準に係る状況

自己評価書において、基準ごとに〔基準に係る状況〕を記述しますが、目的との関連や「基本的な観点」の状況を踏まえて、教育活動等の取組や活動の内容等について、当該基準に係る状況を分析します。客観的な事実を記述してください。

たとえば基準領域2の基準2-1の場合は、「基本的な観点」2-1-1を踏まえた分析となり、基準2-2の場合は、2-2-1及び2-2-2の2つの「基本的な観点」を踏まえた分析となります。

すべての「基本的な観点」に係る状況の分析・整理が求められますが、設置基準との整合性や各教職大学院の状況・特色等から判断し、①基準に係る状況が該当する観点を除いても十分に説明できる場合や②観点の内容に該当しない場合には、自己評価書の「基準に係る状況」は当該観点を除いた記述で差し支えありません。

〔基準に係る状況〕の根拠となる資料・データ等のうち、〔基準に係る状況〕の文章記述とあわせて示すことによって、状況説明が分かりやすいと判断されるものについては、必要な箇所を抽出して、資料・データ等を挿入してください。その場合、資料・データ名及び出典（かっこ書き）を付記してください。開示にそぐわない、あるいは、著作権上相応しくない資料・データ等は、本文に挿入はしないでください。

なお、本文挿入した資料・データ部分は字数のカウントからは除きます。

3 基礎データ

本文中に基礎データの内容について記述をするときは、「基礎データ1-〇参照」としてください。

「1現況票」は、評価実施年度5月1日現在のデータを記述してください。

「2専任教員個別表」は、評価実施年度5月1日現在で作成してください。設置審査、履行状況調査で作成した同様の資料で替えても構いません。

「3教育研究業績」は、評価実施年度5月1日現在の専任教員が対象です。人事選考等で作成した同様の資料でも構いません。その場合、部分的に追加に必要な事項を確認することがあります。設置後最初の認証評価では、設置時からの業績、2回目の認証評価からは前回実施年度からの業績が対象となります。

なお、設置時の教員組織が維持されているかを分析・確認するものであり、個人の業績審査をするものではありません。

4 資料・データ等

《根拠となる資料・データ等の例示》を参考に、基準ごとに〔基準に係る状況〕の記述の根拠となる必要な資料・データ等とその資料番号を簡条書き（リスト形式）してください。記載の資料・データ等は、資料集として整理し、自己評価書とあわせて提出します。

5 基準の達成状況についての自己評価

レベルⅠ、レベルⅡにかかわらず、基準の達成状況についての自己評価を次の標語で記入してください。

A…十分に達成している。（レベルⅡの場合は、優れた、あるいは充実した取組、活動となっている。）

B…達成している。（レベルⅡの場合は、相応の取組、活動となっている。）

C…達成しているが問題・課題がある。（レベルⅡの場合は、期待された取組、活動となっていない。）

また、「1）当該標語とした分析結果」、「2）評価上で特に記述すべき点」について、1000字程度（50字×20行）までの分量で記述してください。

6 「長所として特記すべき事項」

各基準領域の最後に設けた特記事項「長所として特記すべき事項」は、当該教職大学院の特色になっていて、基準やその「基本的な観点」にあてはまらない事柄や収まりきらない事柄を含めて、広く紹介することにより各教職大学院の教育活動等の支えを促すことをねらいとしています。具体的な内容を、1000字程度(50字×20行)で簡潔にまとめ、今後の伸張策等を含め、自由に、そして積極的に記述してください。

資料・データ等の挿入も構いません。挿入した資料・データは、字数のカウントからは除きます。

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域 1

III 基準ごとの自己評価 (※ 全体で45,000字以内が目安)

基準領域 1

略

基準領域 3 教育の課程と方法

1 基準ごとの分析

基準 3-1 レベル I

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、理論的教育と実践的教育の融合に留意した体系的な教育課程が編成されていること。

[基準に係る状況] (※ 1,500字程度)

. [資料○]. [資料○].

《必要な資料・データ等》

- [資料○] 開講授業科目一覧 (学生便覧P. ○)
[前掲資料○] 大学院案内 (p. ○)
[資料○] 履修モデル
[資料○] 時間割 (学生便覧P. ○)
.
.

(基準の達成状況についての自己評価: A) (※ 1,000字程度)

- 1)
2)

基準 3-2 レベル I

○ 教育課程を展開するにふさわしい授業内容、授業方法・形態が整備されていること。

[基準に係る状況]

. 「データ名」
. [資料○].
. (出典: P. ○)
. [資料○].

《必要な資料・データ等》

- ・
- ・
- ・
- ・

[資料○] 教員一覧、教員分類別内訳

[資料○] 科目別専任教員数一覧

[資料○] シラバス（学生便覧P. ○）

[資料○] 履修モデル

（基準の達成状況についての自己評価：B）

基準3-3 レベルI

基準3-4 レベルI

基準3-5 レベルI

2 「長所として特記すべき事項」（※ 1,000字程度）

.....

.....

.....

基準領域ごとに改頁する。

IV 自己評価書のイメージ

教職大学院認証評価
自己評価書

平成 年 月
○○大学大学院○○研究科○○専攻

○○大学大学院○○研究科○○専攻

目 次

I 教職大学院の現況及び特徴・・・・・・・・・・ 1

II 教職大学院の目的・・・・・・・・・・ 2

III 基準ごとの自己評価

 基準領域1 ○○・・・・・・・・・・ 3

 基準領域2 ○○・・・・・・・・・・ ○

 基準領域3

 基準領域4

 基準領域5

 基準領域6

 基準領域7

 基準領域8

 基準領域9

 基準領域10 ○○・・・・・・・・・・ ○

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

I 教職大学院の現況及び特徴

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名：
 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地：〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇

(3) 学生数及び教員数（平成〇〇年5月1日現在）
 学生数 〇〇人
 教員数 〇〇人（うち、実務家教員 〇〇人）

2 特徴

.....

- 1 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

II 教職大学院の目的

1

 2

- 2 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域1

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域1

III 基準ごとの自己評価

基準領域1 理念・目的

1 基準ごとの分析

基準1-1 レベルI

○.....
 [基準に係る状況]

 《必要な資料・データ等》
()
 (基準の達成状況についての自己評価：A)

1).....
 2).....

基準1-2 レベルI

○.....
 [基準に係る状況]
 ~~~~~

2 「長所として特記すべき事項」

- 3 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻基準領域10

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻基準領域10

基準領域10 教育委員会及び学校等との連携

1 基準ごとの分析

基準10-1 レベルI

○.....  
 [基準に係る状況]  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....  
 《必要な資料・データ等》  
 .....( )  
 .....( )  
 (基準の達成状況についての自己評価：B)

1).....  
 2).....

- 〇 -

## V 自己評価書の提出

## 1 提出方法

「自己評価書」は、冊子体を**20部**、電子媒体を**1部**提出してください。（訪問調査時の部数は、「1-3 訪問調査実施要領 III 当日の対応（4）資料・データ等の確認、収集」参照）

|                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教職大学院認証評価<br/>自己評価書</p> <p>（2箇所ホッチキス止め）</p> <p>平成 年 6 月<br/>〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------|

冊子（紙媒体）は、表紙の裏面を目次とし、頁なし。  
以下、「I 教職大学院の現況及び特徴」から通し頁を付して両面印刷とする。  
表紙を含め、通常のコピー用紙を使用する。

電子媒体はCD-RかUSBメモリのいずれかとしてください。

ファイル形式は、PDF等に変換せず、MS-Word形式でご提出ください。外字、特殊な漢字等の使用は注意してください。

**基礎データ**は、**8セット**提出願います。

1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育研究業績の順に綴り、ファイル綴じ等の方法でまとめてください。

**資料・データ等**は、シール、インデックス等で資料番号を付し、**8セット**提出願います。

基準領域順に出来るだけファイル綴じし、散在しないよう配慮願います。

適宜、目次（一覧表）を付してください。

シール・インデックスの作成例

|        |      |
|--------|------|
| 基準〇-〇〇 | 〇〇大学 |
|--------|------|

（添書の例）

自己評価書には、別紙のような書式により、添書（鑑・公文書）を付してください。

## 2 提出期限及び提出先

（1）提出期限 **平成30年6月29日（金）**

（2）提出先 184-8501  
東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学内  
教員養成評価機構事務局

（3）提出手段 郵便または宅配便  
電子媒体は破損しないよう配慮願います。  
「教職大学院認証評価自己評価書 在中」と表示してください。

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| 文書番号<br>平成 年 月 日                                                    |
| 一般財団法人<br>教員養成評価機構理事長殿                                              |
| 〇〇大学長<br>〇〇〇〇公印                                                     |
| 教職大学院認証評価にかかる<br>自己評価書の提出について                                       |
| 教職大学院認証評価を受けるにあたり、本<br>学大学院〇〇研究科〇〇専攻の自己評価書及<br>び関係資料を別添のとおり提出いたします。 |